

第5次朝霞市総合計画後期基本計画

人口動態及び人口推計の概要

令和元年11月



本資料は、朝霞市の人口動態を整理、分析し、その結果を踏まえ、将来人口の推計についてまとめたものです。

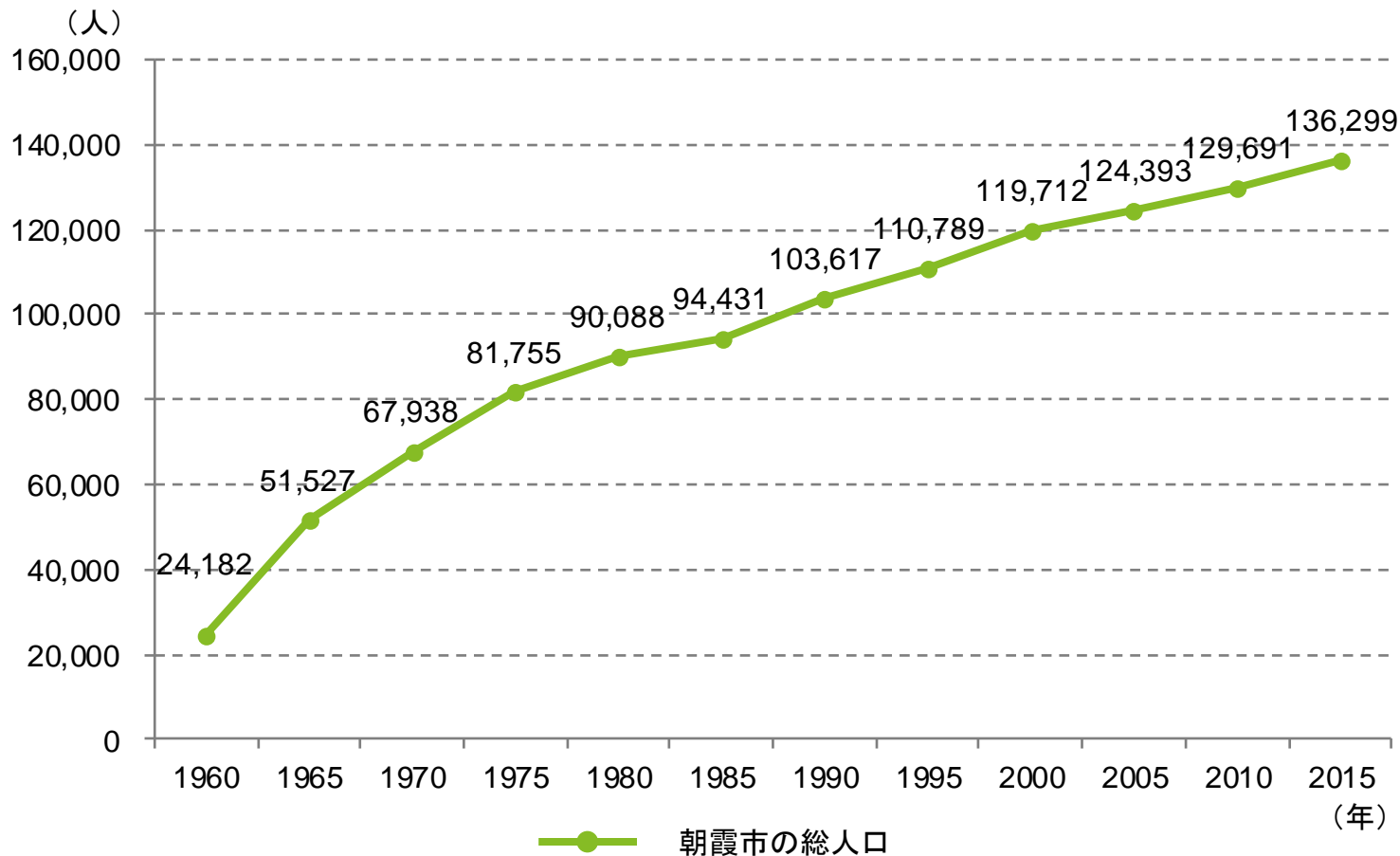
目次

1. 朝霞市の人口動態	2
1-1. 総人口の推移	3
1-2. 年齢3区分別人口の推移	4
1-3. 出生・死亡数及び自然増減の推移	5
1-4. 合計特殊出生率の推移	6
1-5. 転入・転出数及び社会増減の推移	7
1-6. 性別年齢階級別の純移動数	8
2. 将来人口の推計	9
2-1. 将来人口の推計1	10
2-2. 将来人口の推計2	13
2-3. 児童・生徒数及び学級数の推計	15

1. 朝霞市の人口動態

1-1. 総人口の推移

- 本市の総人口は、高度経済成長期から急激な人口増加となっており、昭和42(1967)年の市制施行以降も、今日まで増加傾向を維持しています。
- 昭和55(1980)年までは10%以上増加しており、1985年以降はおよそ5%の増加を続けています。
- 東武東上線の有楽町線や副都心線との相互乗り入れなど、都心へのアクセスの利便性向上が増加を続ける一因と考えられます。

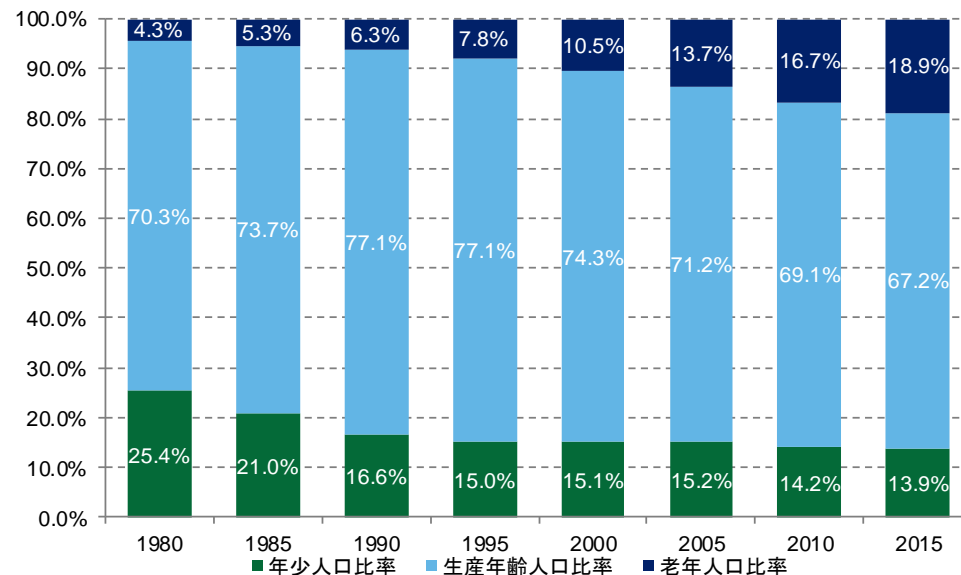
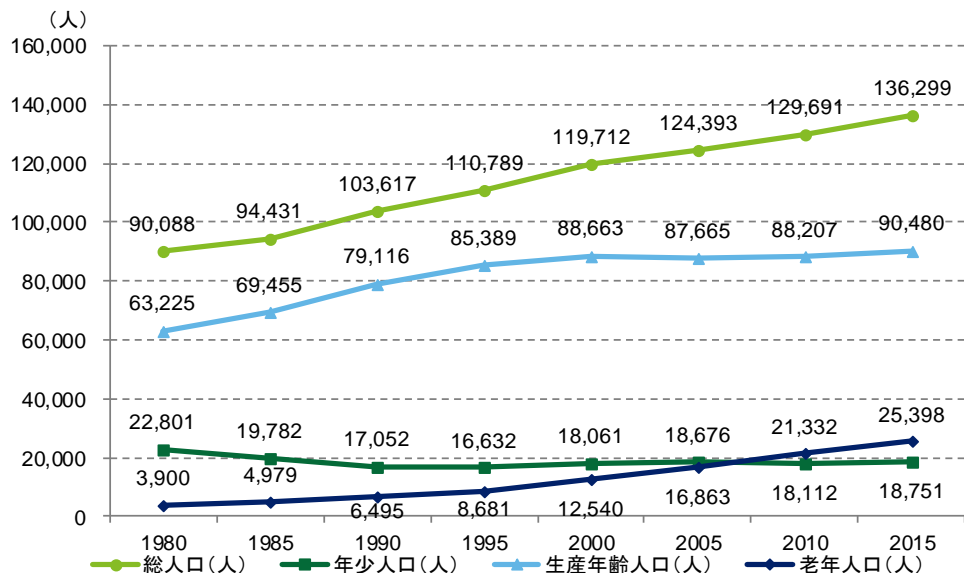


年	総人口(人)
1960	24,182
1965	51,527
1970	67,938
1975	81,755
1980	90,088
1985	94,431
1990	103,617
1995	110,789
2000	119,712
2005	124,393
2010	129,691
2015	136,299

出所:国勢調査

1-2. 年齢3区分別人口の推移

- 年少人口(15歳未満)は、増加と減少を繰り返しつつも、長期的には減少傾向にあります。
- 生産年齢人口(15歳以上65歳未満)は、平成17(2005)年に一度減少していますが、増加傾向にあります。
- 老年人口(65歳以上)は、昭和55(1980)年から増加傾向にあり、平成22(2010)年に年少人口を上回っています。
- 比率で見ると、年少人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進んでいることがうかがえます。



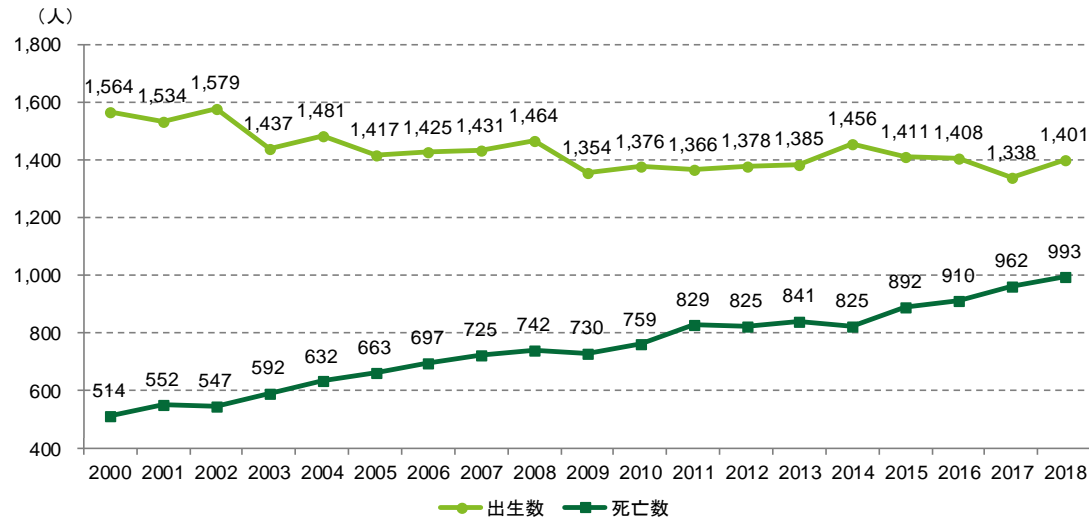
年	総人口(人)	年少人口(人)	生産年齢人口(人)	老年人口(人)	年少人口比率	生産年齢人口比率	老年人口比率
1980	90,088	22,801	63,225	3,900	25.4%	70.3%	4.3%
1985	94,431	19,782	69,455	4,979	21.0%	73.7%	5.3%
1990	103,617	17,052	79,116	6,495	16.6%	77.1%	6.3%
1995	110,789	16,632	85,389	8,681	15.0%	77.1%	7.8%
2000	119,712	18,061	88,663	12,540	15.1%	74.3%	10.5%
2005	124,393	18,676	87,665	16,863	15.2%	71.2%	13.7%
2010	129,691	18,112	88,207	21,332	14.2%	69.1%	16.7%
2015	136,299	18,751	90,480	25,398	13.9%	67.2%	18.9%

※年齢3区分人口は、年齢不詳人口を含まないため、総人口には一致しない
 ※比率は、年齢不詳人口を除いている

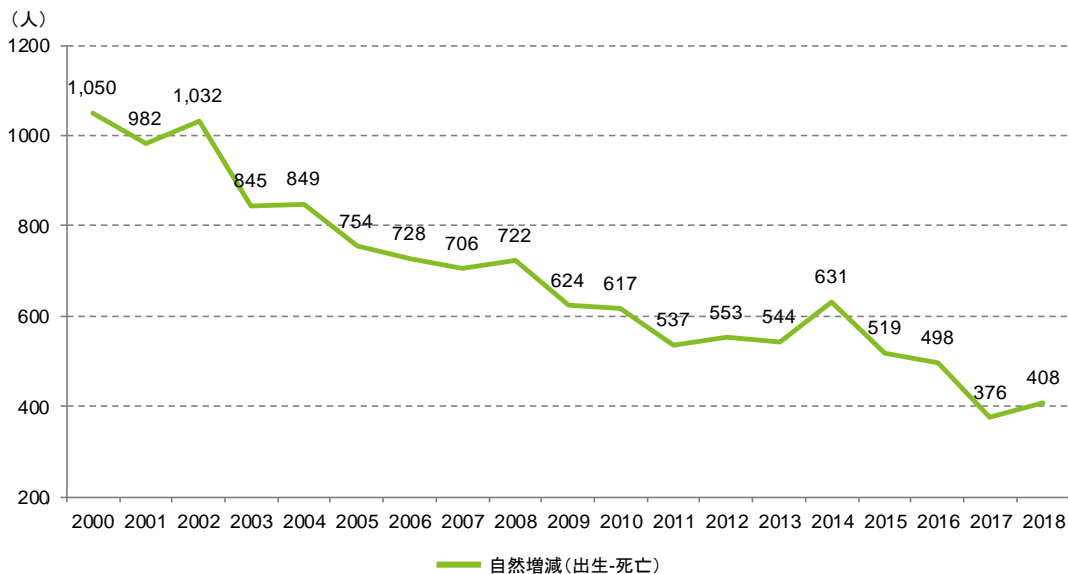
出所: 国勢調査

1-3. 出生・死亡数及び自然増減の推移

- 出生数は、平成15(2003)年に減少した後、横ばいで推移しています。
- 死亡数は、減少している年もありますが、長期的に増加傾向にあります。
- 自然増減は、平成12(2000)年から平成30(2018)年まで自然増を維持していますが、増加幅は長期的に減少傾向にあります。



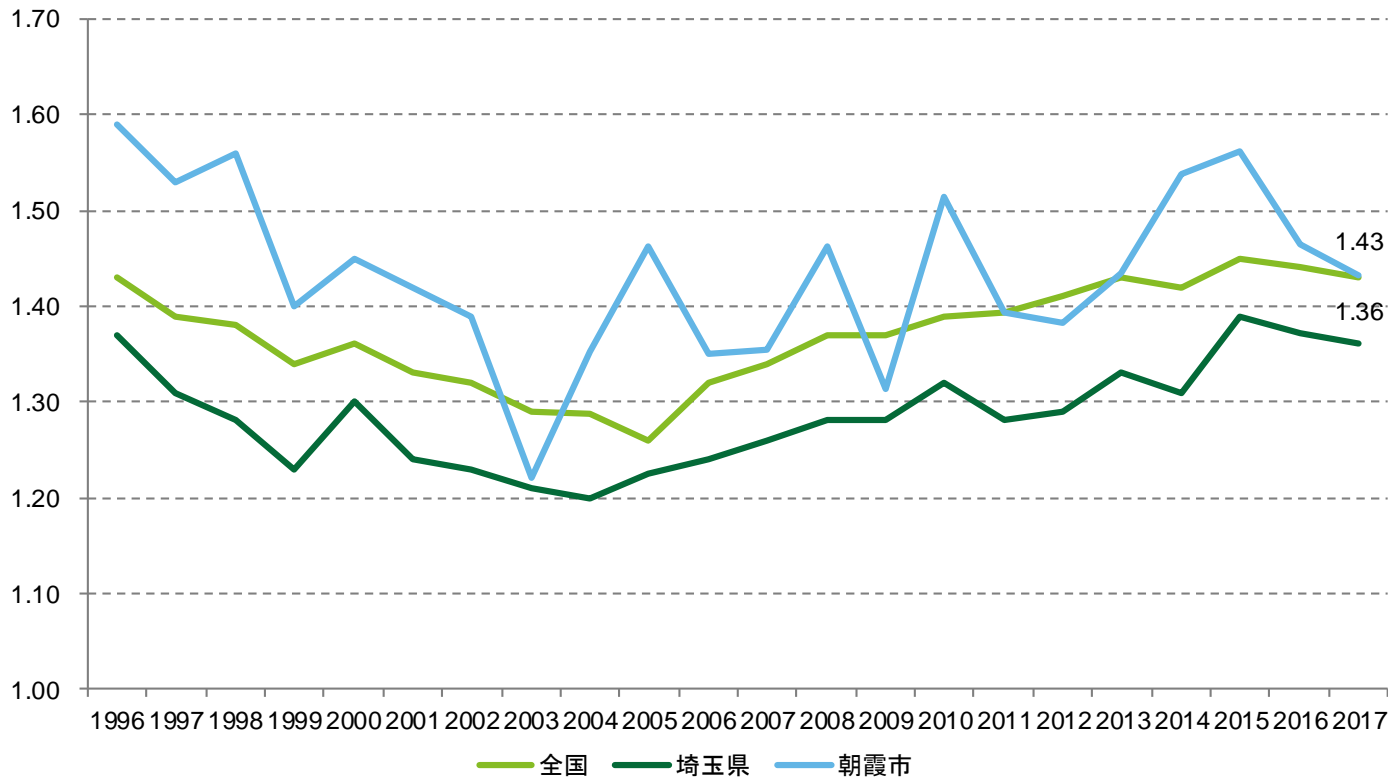
年	出生数	死亡数	自然増減 (出生-死亡)
2000	1,564	514	1,050
2001	1,534	552	982
2002	1,579	547	1,032
2003	1,437	592	845
2004	1,481	632	849
2005	1,417	663	754
2006	1,425	697	728
2007	1,431	725	706
2008	1,464	742	722
2009	1,354	730	624
2010	1,376	759	617
2011	1,366	829	537
2012	1,378	825	553
2013	1,385	841	544
2014	1,456	825	631
2015	1,411	892	519
2016	1,408	910	498
2017	1,338	962	376
2018	1,401	993	408



出所:統計あさか

1-4. 合計特殊出生率の推移

- 合計特殊出生率は、増減を繰り返しながらも、概ね1.30～1.50の間で推移しています。
- 全国と比較すると、多くの年で上回っており、2017年は同水準となっています。
- 埼玉県と比較すると、1996年～2017年にかけて上回っています。

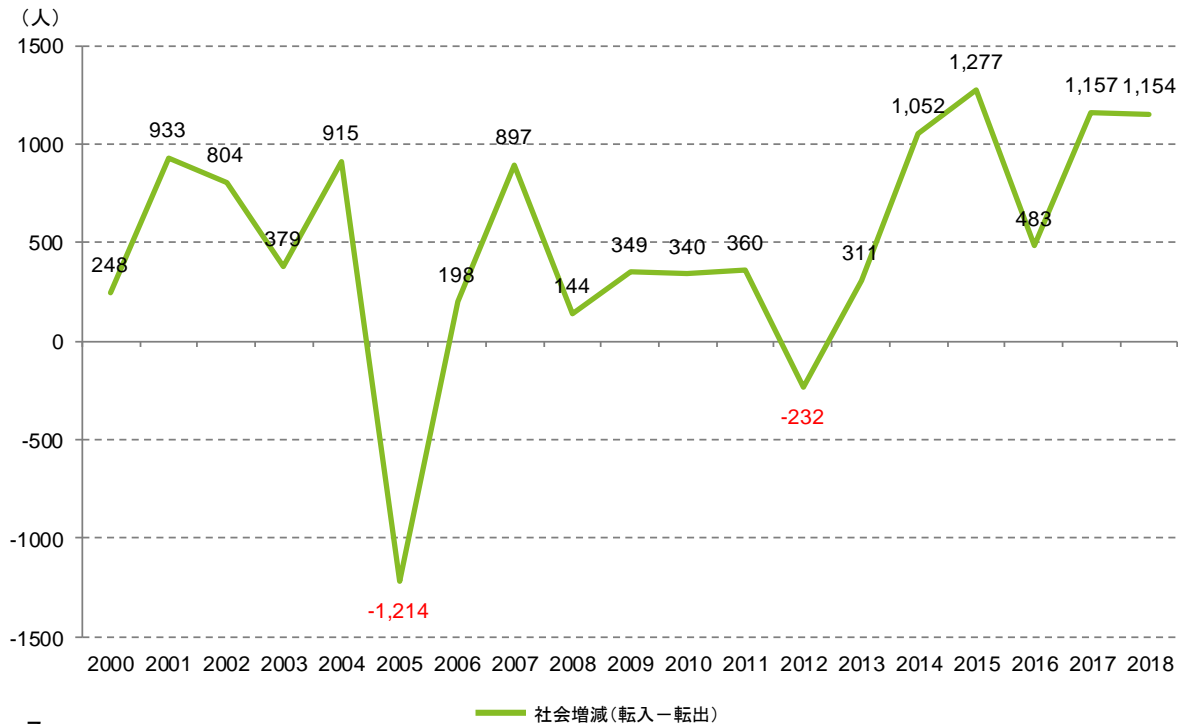
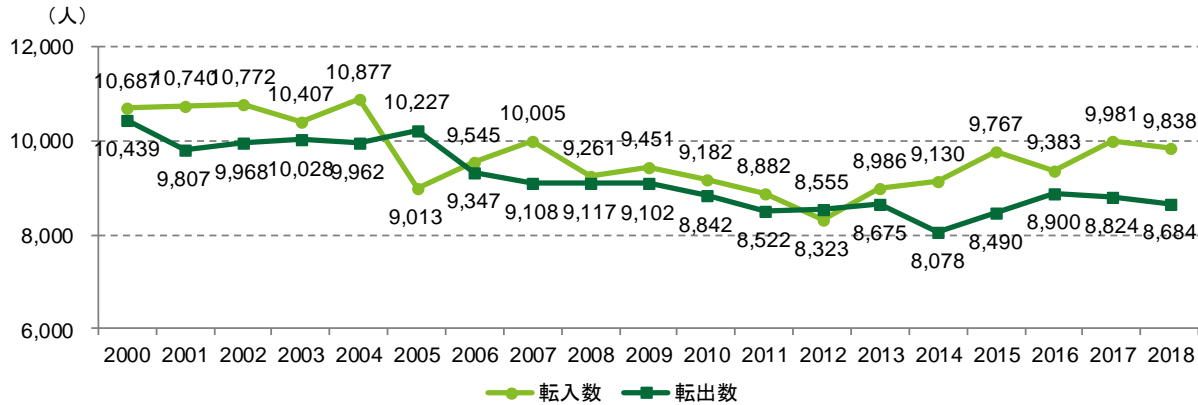


年	全国	埼玉県	朝霞市
1996	1.43	1.37	1.59
1997	1.39	1.31	1.53
1998	1.38	1.28	1.56
1999	1.34	1.23	1.40
2000	1.36	1.30	1.45
2001	1.33	1.24	1.42
2002	1.32	1.23	1.39
2003	1.29	1.21	1.22
2004	1.29	1.20	1.35
2005	1.26	1.22	1.46
2006	1.32	1.24	1.35
2007	1.34	1.26	1.35
2008	1.37	1.28	1.46
2009	1.37	1.28	1.31
2010	1.39	1.32	1.51
2011	1.39	1.28	1.39
2012	1.41	1.29	1.38
2013	1.43	1.33	1.43
2014	1.42	1.31	1.54
2015	1.45	1.39	1.56
2016	1.44	1.37	1.47
2017	1.43	1.36	1.43

出所: 埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

1-5. 転入・転出数及び社会増減の推移

- 転入数は、平成24(2012)年まで長期的に減少傾向でしたが、平成27(2015)年にかけて増加し、以降9,000人台で推移しています。
- 転出数は、長期的に減少傾向にあります。
- 社会増減は、平成17(2005)年と平成24(2012)年を除いて、社会増となっています。



年	転入数	転出数	社会増減 (転入-転出)
2000	10,687	10,439	248
2001	10,740	9,807	933
2002	10,772	9,968	804
2003	10,407	10,028	379
2004	10,877	9,962	915
2005	9,013	10,227	-1,214
2006	9,545	9,347	198
2007	10,005	9,108	897
2008	9,261	9,117	144
2009	9,451	9,102	349
2010	9,182	8,842	340
2011	8,882	8,522	360
2012	8,323	8,555	-232
2013	8,986	8,675	311
2014	9,130	8,078	1,052
2015	9,767	8,490	1,277
2016	9,383	8,900	483
2017	9,981	8,824	1,157
2018	9,838	8,684	1,154

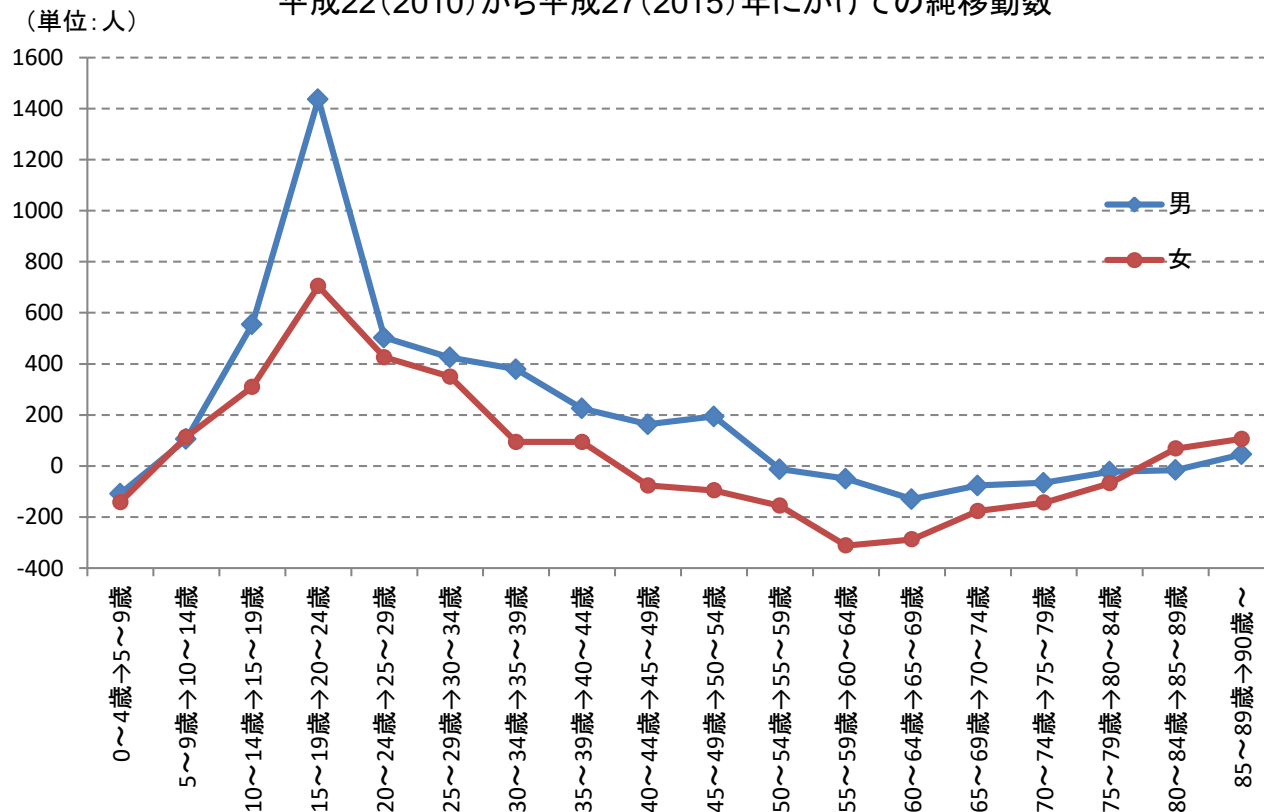
出所:統計あさか

1-6. 性別年齢階級別の純移動数

- 平成22(2010)から平成27(2015)年にかけての転入数から転出数を差し引いた純移動数の状況を性別、年齢階級別に見ると、「15～19歳→20～24歳」の年齢階級は、男性、女性のいずれも大幅に転入超過となっており、進学や就職するタイミングで本市に入ってきていると考えられます。
- 一方、「0～4歳→5～9歳」の年齢階級は、男性、女性いずれも転出しており、未就学から就学前後にかけての子どもたちは、転入よりも転出が多いと考えられます。

※「15～19歳→20～24歳」は平成22(2010)に15～19歳だった方が、平成27(2015)年に20～24歳になる年齢階級を示します。

平成22(2010)から平成27(2015)年にかけての純移動数



年齢区分	男	女
0～4歳→5～9歳	-109	-142
5～9歳→10～14歳	105	114
10～14歳→15～19歳	555	310
15～19歳→20～24歳	1437	705
20～24歳→25～29歳	503	426
25～29歳→30～34歳	425	350
30～34歳→35～39歳	379	94
35～39歳→40～44歳	225	94
40～44歳→45～49歳	163	-77
45～49歳→50～54歳	194	-96
50～54歳→55～59歳	-13	-156
55～59歳→60～64歳	-50	-312
60～64歳→65～69歳	-130	-288
65～69歳→70～74歳	-77	-177
70～74歳→75～79歳	-66	-144
75～79歳→80～84歳	-23	-68
80～84歳→85～89歳	-16	68
85～89歳→90歳～	45	106

出所:総務省「国政調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づくまち・ひと・しごと創生本部作成資料

2. 将来人口の推計

※ 将来人口の推計は下記のとおり2段階で行いました。

2-1. 将来人口の推計1

前期基本計画の策定当時に仮定した条件とデータを用いて推計したもの(前期基本計画の条件による推計)と、策定後に得られた最新のデータを反映させて新たに推計し直したもの(基本推計)と、結果を比較しました。

2-2. 将来人口の推計2

前期基本計画の策定と同時期に、本市は朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定していることから、人口減少の克服と地域経済の活性化に向けた取組による影響を踏まえた補正(試算①～試算④)を基本推計に加え、最終的な推計結果を導き出しました。

2-1. 将来人口の推計1

2-1-1. 推計の条件

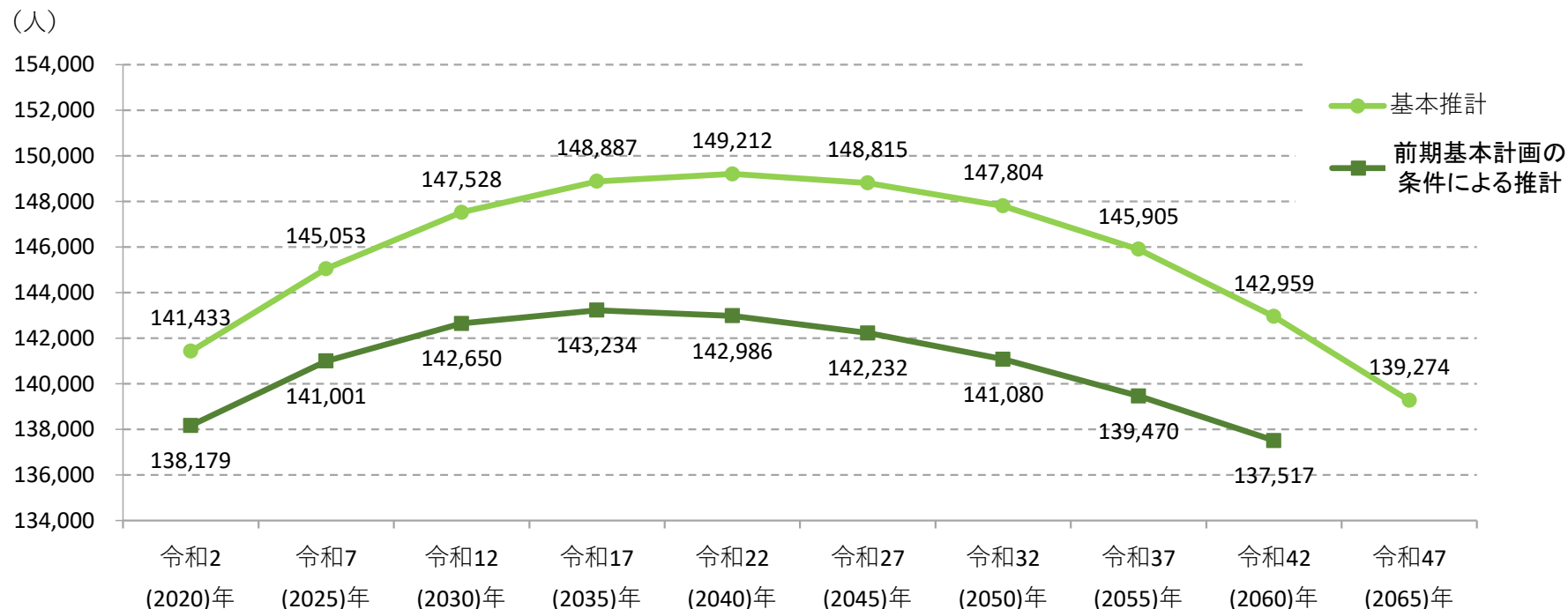
- 前期基本計画の策定当時に仮定した条件とデータを用いた推計(前期基本計画の条件による推計)の結果と、策定後に得られた最新のデータを反映させて新たに推計し直した結果(基本推計)を比較しました。

No.	項目	前期基本計画の条件による推計 (策定当時に仮定した条件)	基本推計 (最新のデータを反映させて新たに推計)
1	データ出典	住民基本台帳人口	住民基本台帳人口
2	基準日	平成25(2013)年1月1日	平成31(2019)年1月1日
3	推計期間	平成45(2033)年まで、1年ごとに、男女1歳階級別に実施	令和47(2065)年まで、1年ごとに、男女1歳階級別に実施
4	移動率	平成20(2008)年～平成24(2012)年の純移動率の実績値を用いて算出 転入出者数が人口に占める割合に比例して、純移動率は平成45年にかけて推計開始時の55.7%まで低下するよう補正	平成21(2009)年から平成31(2019)年までの毎年の人口動態の比率を平均(10か年分)して算出 転入出者数が人口に占める割合に比例して、純移動率は令和47(2065)年にかけて、推計開始時の36.3%まで低下するよう補正
5	生残率	「日本の将来推計人口」(H24.1)の生残率仮定値(中位)を、H22年埼玉県生命表を用いて補正	厚生労働省の第22回完全生命表(平成27年国勢調査人口を基に作成)の生残率を活用
6	出生率	「日本の将来推計人口」(H24.1)の出生率仮定値(中位)を、埼玉県の合計特殊出生率(過去10年間)で補正	平成29(2017)年の年齢階級別出生率を活用
7	出生時の 男女性比	社人研発表の男女性比(男105.5:女100)	社人研発表の朝霞市男女性比(男105.2:女100)を活用

2-1. 将来人口の推計1

2-1-2. 推計結果(全年齢)

- 今後もしばらく増加傾向で推移し、令和22(2040)年でピーク(149,212)人を迎えた後、以降減少傾向に転じ、令和47(2065)年には139,274人になると見込まれます。
- 前期基本計画の条件による推計と比較すると、新たに推計し直した基本推計のピークは5年遅くなっており、またピーク時の人口は5,978人上回ると見込みます。



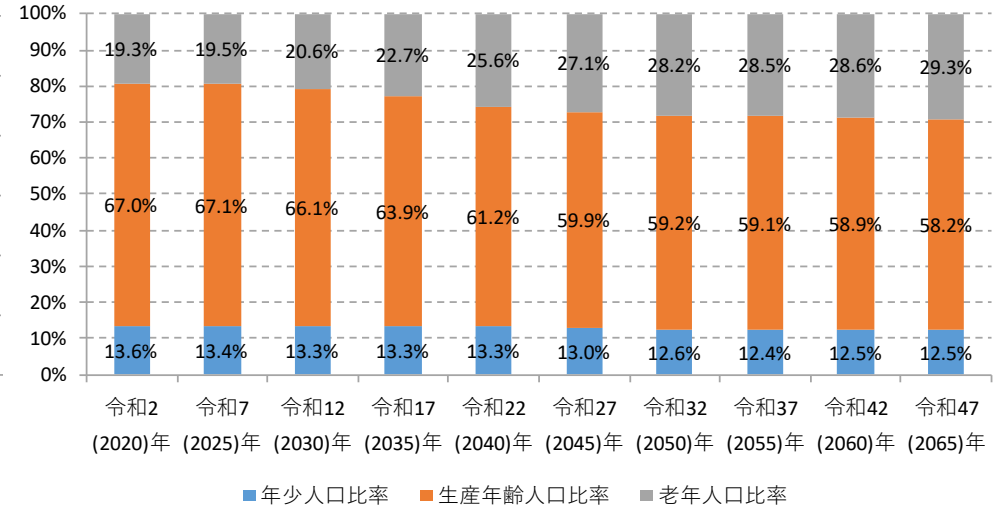
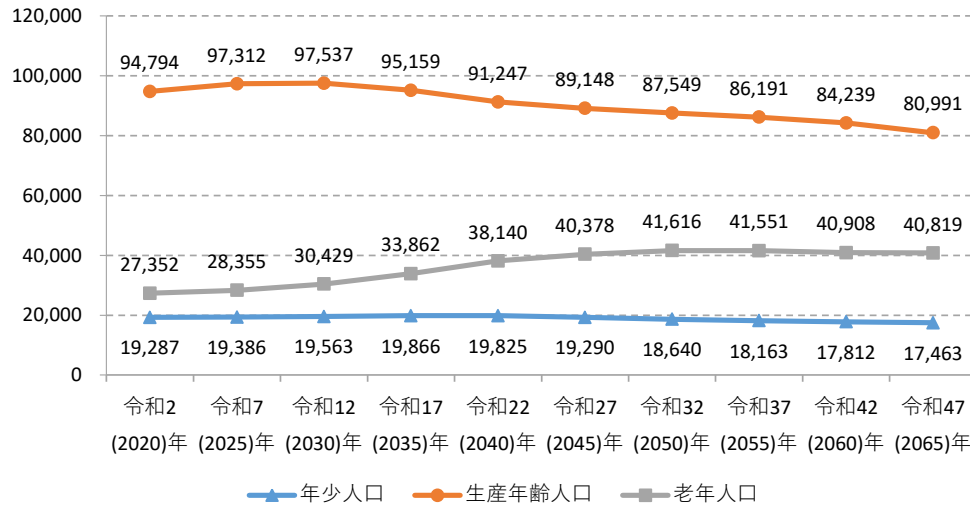
	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
基本推計	141,433	145,053	147,528	148,887	149,212	148,815	147,804	145,905	142,959	139,274
前期基本計画の条件による推計	138,179	141,001	142,650	143,234	142,986	142,232	141,080	139,470	137,517	

2-1. 将来人口の推計1

2-1-3. 推計結果(年齢3区分別人口)

- 基本推計によれば、年少人口は令和17(2035)年、生産年齢人口は令和12(2030)年、老年人口は令和32(2050)年にピークを迎え、減少に転じると見込まれます。
- 年齢3区分別人口の比率をみると、老年人口の比率が増加すると見込まれ、高齢化の進展が予想されます。

(人)



	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
総人口	141,433	145,053	147,528	148,887	149,212	148,815	147,804	145,905	142,959	139,274
年少人口	19,287	19,386	19,563	19,866	19,825	19,290	18,640	18,163	17,812	17,463
生産年齢人口	94,794	97,312	97,537	95,159	91,247	89,148	87,549	86,191	84,239	80,991
老年人口	27,352	28,355	30,429	33,862	38,140	40,378	41,616	41,551	40,908	40,819
年少人口比率	13.6%	13.4%	13.3%	13.3%	13.3%	13.0%	12.6%	12.4%	12.5%	12.5%
生産年齢人口比率	67.0%	67.1%	66.1%	63.9%	61.2%	59.9%	59.2%	59.1%	58.9%	58.2%
老年人口比率	19.3%	19.5%	20.6%	22.7%	25.6%	27.1%	28.2%	28.5%	28.6%	29.3%

2-2. 将来人口の推計2

2-2-1. 試算条件

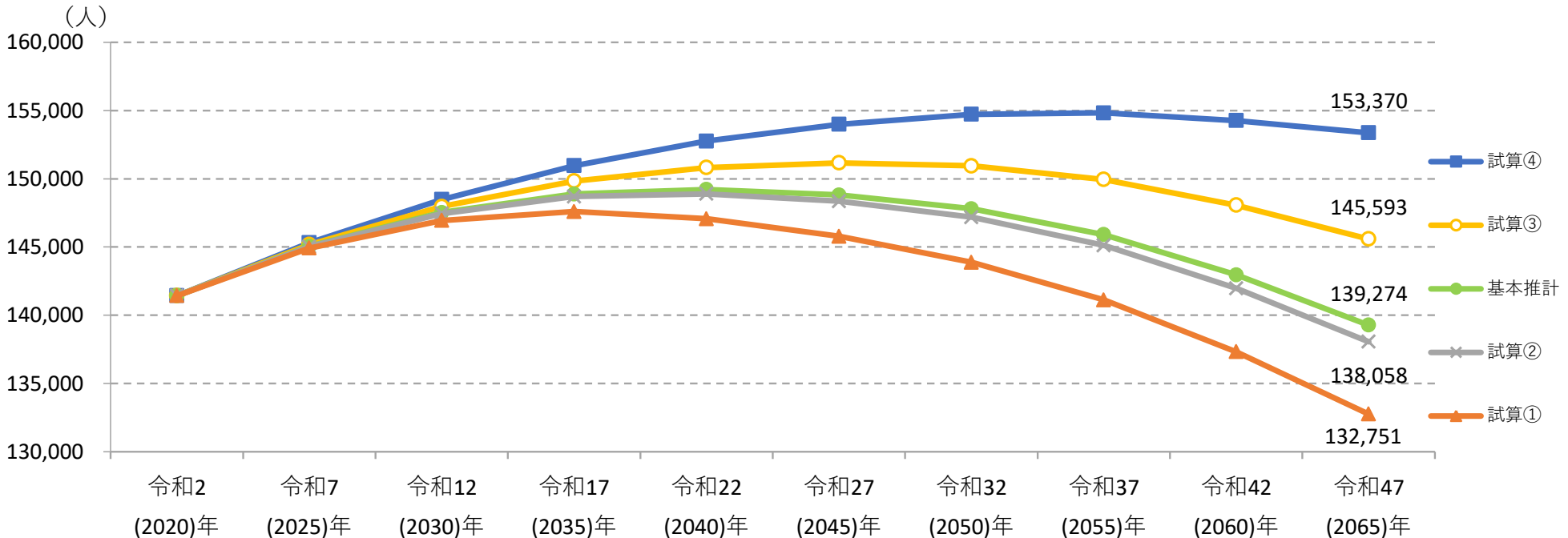
- 前期基本計画の策定と同時期に、本市は朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定していることから、人口減少の克服と地域経済の活性化に向けた取組による影響を踏まえた補正（試算①～試算④）を基本推計に加え、最終的な推計結果を導き出しました。
- 朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略と同様に、社会移動と合計特殊出生率による条件から、複数の試算を実施しました。

No.	試算パターン	社会移動	合計特殊出生率	令和47(2065)年時点の人口
1	基本推計	平成21(2009)年から平成31(2019)年までの毎年の人口動態の比率を平均(10か年分)して算出 転入出者数が人口に占める割合に比例して、純移動率は令和47(2065)年にかけて、推計開始時の36.3%まで低下するよう補正	平成29(2017)年の年齢階級別出生率を活用	13.9万人
2	試算①	令和12(2030)年時点で、基本推計の2割減に達する	令和22(2040)年までに1.4に達し、以後一定	13.3万人
3	試算②	基本推計の条件に同じ	令和22(2040)年までに1.4に達し、以後一定	13.8万人
4	試算③	基本推計の条件に同じ	令和22(2040)年までに1.6に達し、以後一定	14.5万人
5	試算④	基本推計の条件に同じ	令和22(2040)年までに1.8に達し、以後一定	15.3万人

2-2. 将来人口の推計2

2-2-2. 試算結果

- 本市は令和22(2040)年度までに合計特殊出生率が1.6に達すること(試算③の条件)を想定し、朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略に取り組んでることから、試算③の結果を、後期基本計画の策定に向けて想定される最終的な将来人口の推計結果とします。
- この試算結果から、第5次朝霞市総合計画の計画終了となる令和7(2025)年における朝霞市の人口は145,171人になると見込みます。



	令和2 (2020)年	令和7 (2025)年	令和12 (2030)年	令和17 (2035)年	令和22 (2040)年	令和27 (2045)年	令和32 (2050)年	令和37 (2055)年	令和42 (2060)年	令和47 (2065)年
試算④	141,433	145,311	148,485	150,961	152,760	153,989	154,724	154,828	154,274	153,370
試算③	141,433	145,171	147,964	149,832	150,827	151,171	150,951	149,951	148,063	145,593
基本推計	141,433	145,053	147,528	148,887	149,212	148,815	147,804	145,905	142,959	139,274
試算②	141,433	145,030	147,443	148,702	148,896	148,355	147,190	145,117	141,970	138,058
試算①	141,433	144,923	146,949	147,594	147,070	145,778	143,882	141,121	137,316	132,751
前期基本計画	138,179	141,001	142,650	143,234	142,986	142,232	141,080	139,470	137,517	

2-3. 児童・生徒数及び学級数の推計

■ 本市の人口は今後もしばらくは増加傾向となることを前提に、今後見込まれる児童・生徒数及び学級数の増減については、下記のとおりと
なることが見込まれます。

年度	区分	朝一小	朝二小	朝三小	朝四小	朝五小	朝六小	朝七小	朝八小	朝九小	朝十小	小計	朝一中	朝二中	朝三中	朝四中	朝五中	小計	合計
令和 元年度	児童・生徒数	561	719	691	652	936	897	766	1,123	347	675	7,367	833	748	778	546	371	3,276	10,643
	学級数	20	23	22	21	29	28	25	32	14	22	236	24	22	24	15	11	96	332
令和 2年度	児童・生徒数	548	696	716	641	944	914	738	1,162	336	709	7,404	850	800	762	584	369	3,365	10,769
	学級数	20	23	24	21	29	28	24	33	14	23	239	25	24	24	16	11	100	339
令和 3年度	児童・生徒数	573	728	733	618	965	955	748	1,157	351	752	7,580	874	817	848	628	375	3,542	11,122
	学級数	20	25	24	21	30	29	25	34	13	25	246	26	25	26	17	10	104	350
令和 4年度	児童・生徒数	557	712	773	612	955	977	763	1,148	349	813	7,659	869	805	793	635	358	3,460	11,119
	学級数	20	24	25	20	30	30	25	33	13	28	248	25	23	24	17	11	100	348
令和 5年度	児童・生徒数	521	656	779	582	892	931	684	1,205	345	796	7,391	799	727	715	642	348	3,231	10,622
	学級数	19	22	26	20	28	30	22	34	13	27	241	23	22	22	18	10	95	336
令和 6年度	児童・生徒数	533	667	803	585	959	1,010	730	1,239	334	828	7,688	823	765	786	682	354	3,410	11,098
	学級数	20	22	25	20	30	32	24	37	13	27	250	24	23	25	18	10	100	350
令和 7年度	児童・生徒数	553	669	866	515	1,074	1,130	726	1,227	292	916	7,968	832	867	939	772	292	3,702	11,670
	学級数	20	23	28	19	33	35	23	36	13	27	257	24	25	28	21	9	107	364

※1 令和元年度の児童数(特別支援学級を除く)は実数です。

※2 令和2年度以降の児童数(特別支援学級を除く)は、住民基本台帳による数値に、推計と実数の誤差率を掛けています。

※3 令和2年度以降の学級数は、小学校では1・2年生は35人で除し、3年生以降は40人で除した学級数です

※4 令和2年度以降の学級数は、中学校では全学年40人で除した学級数です。

※5 令和2年度以降の特別支援学級数については、本年度の学級数を加算しています。